

疫病、べと病などの卵菌類病害に
“よかったね、早めのランマン”

殺菌剤

ランマン[®] フロアブル

®は登録商標

特長 1

優れた予防効果・残効性・耐雨性

優れた残効性と耐雨性により安定した予防効果が期待できます。
残効が長く、作物・生育ステージによっては、10~14日間隔の散布も可能で、
農業使用回数の低減につながります。

特長 2

病原菌の各生育ステージを低濃度で阻害

孢子発芽から孢子形成に至る各生育ステージを阻害し、安定した防除効果を示します。

特長 3

まん延防止効果 (サニテーション効果)

予防効果主体の薬剤ですが、遊走子のう形成阻害作用に優れ、次世代の菌密度を
効率的に抑えるので、未感染葉や周辺株への病害進展を防ぎます。

特長 4

登録作物が多い

主要作物からマイナー作物まで様々な作物に登録があるので汎用性が高く、
使いやすい薬剤です。



適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアゾファミドを含む農薬の総使用回数	
稲(稲育苗)	苗立枯病(ピシウム菌)	1,000	※1	は種時	1回	土壌灌注	1回	
				発芽後〜緑化期				
ぶどう	べと病	1,000~2,000	200~700	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
かんきつ	褐色腐敗病	2,000		収穫前日まで				
いちじく	疫病			収穫3日前まで				
日本なし								
小麦	褐色雪腐病	1,000	100	根雪前	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		250	25					
		8	0.8					
あずき	茎疫病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布は3回以内)	
		1,000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	散布		
だいず	茎疫病 べと病	原液	種子重量の1~2%	は種前	1回	種子塗沫		
		1,000~2,000	100~300	収穫7日前まで	3回以内	散布		
えだまめ	茎疫病 べと病	原液	種子重量の2%	は種前	1回	種子塗沫		
		1,000~2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	散布		
ばれいしょ	疫病	1,000~2,000	100~300	収穫7日前まで	4回以内	無人航空機による散布	4回以内	
		375	25					
		600	40					
		32	3.2					
さといも	疫病	2,000	100~300	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
カリフラワー	べと病	2,000	100~300	収穫3日前まで	4回以内	散布	6回以内 (育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内)	
	根こぶ病		250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
キャベツ	べと病 ピシウム腐敗病	2,000	500	2ℓ/1箱※2	定植前日~当日	1回		灌注
			250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
はくさい	べと病 ピシウム腐敗病 白さび病	2,000	100~300	100~300	収穫3日前まで	4回以内	散布	
			250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
			2ℓ/1箱※2	定植前日~当日	1回	灌注		
非結球あぶらな科葉菜類 (なばな類を除く)	白さび病	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
なばな類	白さび病	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
ブロッコリー	根こぶ病	2,000	500	2ℓ/1箱※2	定植前日~当日	1回	灌注	
			250ml/株	収穫14日前まで	1回	株元灌注		
きゅうり メロン	べと病	1,000~2,000	150~300	4回以内	4回以内	4回以内		
		1,000	100~300					
ズッキーニ	褐色腐敗病	1,000~2,000	100~300	2回以内	2回以内	2回以内		
すいか	疫病	2,000	150~300	収穫前日まで	3回以内	3回以内		
とうがん	疫病	1,000~2,000	150~300	4回以内	4回以内	4回以内		
かぼちゃ	べと病 疫病	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
トマト ミニトマト ピーマン とうがらし類	疫病	1,000~2,000	100~300	4回以内	4回以内	4回以内		
なす	褐色腐敗病	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
ねぎ	べと病							
わけぎ							4回以内	
葉たまねぎ たまねぎ	白色疫病							
みょうが(花穂)	根茎腐敗病	500	3ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注	4回以内 (種根茎浸漬は1回以内、土壌灌注は3回以内)	
みょうが(莖葉)	根茎腐敗病	200	-	植付前	1回	30分間種根茎浸漬		
しょうが		500	3ℓ/m ² 1~3ℓ/m ² 2~3ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫30日前まで	3回以内	土壌灌注	3回以内	
葉しょうが	根腐病	500~1,000	3ℓ/m ²	生育期 但し、 収穫3日前まで	3回以内	土壌灌注	3回以内	
こんにやく	根腐病	2,000	150~300	収穫14日前まで	2回以内	散布	3回以内	
畑わさび	収穫7日前まで							
わさび	畑育苗期							
エンサイ	100~300			収穫3日前まで				3回以内
かぶ	べと病 白さび病	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
	根こぶ病			2ℓ/m ²			は種時	1回
だいこん	ワッカ症	2,000	100~300	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
はつかだいこん	白さび病							
みつば	べと病							
レタス 非結球レタス ほうれんそう							収穫3日前まで	2回以内
バジル	べと病	2,000	100~300	但し、伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで	2回以内	2回以内		
おかひじき				150~300	3回以内	3回以内		
らっきょう	白色疫病	2,000	100~300	収穫3日前まで	2回以内	2回以内		
いちご	疫病	500~1,000	50ml/株	育苗期	2回以内	株元灌注	4回以内 (育苗期は2回以内、 定植後は2回以内)	
			100ml/株	生育期 但し、 収穫30日前まで				
ホップ	べと病	2,000	200~700	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	

※1:育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り0.5ℓ ※2:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7ℓ)
※3:みょうが(莖葉)での使用時期は、「みょうが(花穂)の収穫3日前まで。ただし、花穂を収穫しない場合には開花期終了まで。」



殺菌剤分類 21

有効成分

シアゾファミド…9.4%(w/w)

人畜毒性

普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

上手な使い方

- 病害虫の初期発生源となる圃場内や周辺の雑草除去、および前作物の被害残渣や罹病株の処理を適切に行いましょう。
- 農薬の使用にあたっては…
 - 同系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。
 - 農薬の有効成分総使用回数を守りましょう。
- 本剤は灰色かび病や炭疽病、うどんこ病、夏疫病、軟腐病、葉かび病、輪紋病、晩腐病、黒痘病に防除効果がありませんので、それらの病害が同時発生する場合は、これらに有効な薬剤と組み合わせて使用してください。

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 使用前に容器をよく振ってください。
- 予防効果主体なので、できるだけ発病前または発病初期に散布してください。
- 小麦、ばれいしょに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 根こぶ病防除に使用する場合、発病が激しい圃場では効果が劣ることがありますので、土壌処理剤と組み合わせ使用してください。
- キャベツに灌注処理する場合は、品種によっては初期に軽度の生育抑制がみられることがありますが、実用上に問題はありません。
- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすしてください。
- あずき、だいずおよびえだまめの種子塗沫に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - 使用前に容器をよく振ってから塗沫処理を行ってください。
 - 薬剤の使用量を守り、水等で希釈せずに使用してください。
 - 塗沫処理は播種当日または前日に行ってください。
 - 薬剤が種子に均一に付着するように処理した後、速やかに広げて乾燥させてください。
 - 本剤を処理した種子を食用など目的外に使用しないでください。
 - 本剤処理後の播種から発芽までの時期は土壌が過湿にならないように注意してください。
- 散布器具の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう安全に処理してください。
- 使用量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用にあたっては、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意

- 使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。
 - かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意してください。
 - 畜に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
 - 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な所に保管してください。
- ※無人航空機による散布で使用の場合は、製品ラベルの注意事項を守ってください。

容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号

ホームページアドレス <https://ibj.iskweb.co.jp>

本印刷物は、2022年2月時点での知見に基づいて作成しています。

ホームページの
製品情報へ



取扱い